

令和3年度第2回尾張旭市総合教育会議 会議録

1 開催日時

令和3年10月29日（金）午後1時30分から午後2時35分まで

2 開催場所

尾張旭市役所3階 講堂1

3 出席者

市長 森 和 実  
 教育長 河村 晋 教育委員 山本 真依子  
 教育委員 堀 祐 子 教育委員 伊藤 智 成  
 教育委員 松尾 功

4 傍聴者数

1名

5 出席した事務局職員

教育部長 三浦 明 管理指導主事 伊藤 彰 浩  
 教育政策課長 田島 祥 三 指導主事 寺田 泰次郎  
 教育政策課係長 中川 暢 顕 企画課長 山下 昭 彦  
 企画課係長 林 孝 企画課主事 後藤 拓 哉

6 議題

尾張旭市の不登校児童等について

7 会議の要旨

企画課長	<p>ただいまから「令和3年度 第2回尾張旭市総合教育会議」を開催します。</p> <p>前回の会議では、本市の不登校児童等の現状について、皆様と共有しましたが、本日の会議では、本市の対応や学校現場の状況など、より具体的な部分について意見交換したいと思いますので、ぜひ忌憚のない御意見をいただきますよう、よろしくお願ひします。</p>
市長	<p>本日は、前回の会議に引き続き、「尾張旭市の不登校児童等について」を議題としています。</p> <p>先日の新聞記事にも、文部科学省の調査結果が大きく掲載されていましたが、この問題に関しては、全国的な、また社会的な問題として大きな注目が集まっています。</p> <p>なお、本日の会議では、本市の対応や学校現場の状況など、より具体的な部分に対しての意見交換をさせていただきたいと思いますので、忌憚のないご意見をお願いします。</p> <p>それでは議題に移りますので、事務局から説明してください。</p>

<p>事務局 (学校教育課)</p>	<p>「チーム学校」という言葉が使われるようになって何年か経ちましたが、現在、学校には教員とは違った立場でたくさんの方が子どもたちや保護者に関わっています。</p> <p>本市においても、スクールソーシャルワーカー、心の教室相談員、心のアドバイザー等、様々な人材を配置しております。中でも教員OBによる学校教育支援教員は、小学校低学年への学習支援、生活指導等を目的とし、本市独自の取組として各小学校において需要が増しています。</p> <p>9月補正において、中学校への不登校対策養護教諭等の新設配置を含め、これらの支援を拡充したことは、子どもたちや保護者、学校現場において大変有効なことであると考えています。その他、適応指導教室の充実や、各校においても別室登校等、学校や教室に足が向かない児童生徒に対する支援も行っています。</p> <p>続いて、不登校の子どもを抱える保護者同士が、困りごとや悩みごとを気軽に共有したり、日ごろ悩んでいる保護者に相談の場を提供したりすることを目的として、明日、不登校を抱える保護者の会を開催します。</p> <p>会の名称は、子ども、保護者、学校、市、みんなが手を取り合っ て考え、時には一緒に悩んでいこうとの想いを込めて「手と手と手」 を名付けました。各校から声をかけ、初回は7家庭8名の方が参加 する予定です。会の様子については、次回の会議でお伝えしたいと 思います。</p>
<p>事務局 (教育政策課)</p>	<p>不登校傾向にある年間欠席数が30日未満の中学生は、全中学生約325万人の10.2%に当たる約33万人で、文科省が調査をした不登校中学生約10万人の3倍になっています。</p> <p>また、中学校に行きたくない理由として、身体的な症状以外の要因では、「授業がよく分からない」「良い成績がとれない」「テストを受けたくない」などの学習面での理由が多くなっています。</p> <p>文科省が規定している「1年間に合計30日以上、学校を休んだことがある」不登校の対象生徒は約10万人となります。なお、1週間以上連続で学校を休んだが合計日数が30日に満たないケースのほか、学校の校門や保健室、校長室等には行くが教室までは至ることができないケース、そして基本的に教室で過ごす授業に参加する時間が少ないケースなどを足し合わせると、不登校傾向の生徒は約33万人となり、文科省の数字のほかに、その3倍程度の不登校傾向の生徒が存在することとなっています。</p>

<p>事務局 (学校教育課)</p>	<p>さらに、現中学生の「中学校に行きたくない理由」として、「授業がよくわからない・ついていけない」が約50%、「小学校の時に比べて、良い成績が取れない」が33.9%など、学業による理由が多くなっています。</p> <p>不登校児童・生徒数の月別推移については、平成28年度以降、全国的な増加と併せて本市においても年々増加し、夏休み明けの9月に特に増加する傾向があります。今年度につきましても、9月の時点で131名の児童生徒が長期欠席となっています。</p>
<p>市長</p>	<p>本市が実施している取組の内容や、今年度の不登校児童・生徒の推移等についての説明がありました。委員の皆さんは、どのように感じられましたでしょうか。</p> <p>御意見だけでなく、御質問などでも結構ですので、ぜひ遠慮なく御発言いただければと思います。</p>
<p>堀委員</p>	<p>様々な取組を実施していただき心強いと思いますが、例えば学校に行き、朝の時間に15分から20分程度読書をするなど、子どもたちが好きなことができる時間があると「学校に行ってみようかな」との気持ちが芽生えるのではないのでしょうか。</p> <p>また、友達との会話を継続することで、楽しみが増え、コミュニケーション力が向上し、不登校の減少につながるのではないかと思います。</p> <p>「行きたくない」ことには様々な原因があるため、何か楽しいことができることで気持ちが変われば良いかと思います。</p> <p>現在、朝の時間に読書等を取り組んでいる学校はありますか。</p>
<p>事務局 (学校教育課)</p>	<p>全校ではなく、また通年ではありませんが、読書週間や読書月間を設けて、読書に親しむ取組を実施している学校はあります。</p>
<p>堀委員</p>	<p>読書だけでなく、身体を鍛えたいから外を走るなど、子どもたちが好きなことができるような取組を継続し、何か楽しいことを目的に学校へ行くことでも良いのではないかと思います。</p>
<p>事務局 (学校教育課)</p>	<p>例えば、期間限定で授業の間の時間に走ることや、朝から歌を歌うなど、各校で工夫した取組を実施しています。</p>

堀委員	<p>不登校になる前に、楽しいことを増やして、広い視野を持って考えられる子どもになってもらいたいと思います。</p>
市長	<p>アンケートを実施したことはないかと思いますが、子どもたちが学校で楽しいと思うこととは何でしょうか。</p>
事務局 (学校教育課)	<p>教育相談のアンケートでは、小学生は「放課」「給食」。中学生は「部活」が楽しいと答える子どもが多い状況にあります。</p>
伊藤委員	<p>「別室登校の実施」との説明がありましたが、別室であっても同じ学校のため、例えばある小学校で不登校になった場合は、その子を別の小学校に通学できるようにすることはいかがでしょうか。</p> <p>誰が悪いわけではなく、先生や友達と性格が合う・合わないことは当然あると思います。通う学校を変えることにより、何かをきっかけとして変わる可能性もあるのではないかと思います。</p> <p>特例を認めることは難しいかもしれませんが、不登校やいじめを改善する方法のひとつとしては、検討する必要があるのではないかと思います。</p> <p>また、様々な対応を拡充しているので、何か状況が変化した場合はその都度報告していただき、何も変化がなければ別の対応を検討すべきですので、適宜教えてほしいと思います。</p>
教育長	<p>隣接学校選択制度の導入に当たっては、何を理由にその学校へ行かせるのが重要となります。「不登校になったら他校へ」という特段の理由がある場合は、特例的に教育委員会でも認めることは可能です。</p> <p>それが不登校の原因を解決できる方法であれば、検討することは必要ですが、家庭の困難さなどの理由もあるため、ただ闇雲に転校を選択することが良いわけではありません。考え方をしっかり持った中でなければ、自由校区は難しいと思います。</p> <p>本市の場合、校区がきれいに分割されているため、一部の学校に偏るとか、制限をかけることによる人数など、様々な問題が想定されますが、不登校のような特例の場合であれば意見を取入れることができると思います。</p>
山本委員	<p>最終的な選択として、家族で引っ越すことも考えられますが、ハードルが高く、親の負担も相当あると思います。</p>

<p>松尾委員</p>	<p>それが問題ないのであれば、選択肢のひとつとして考えられるのではないかと思います。</p> <p>また、取組内容の拡充により、個人を見る目を増やすことは、本当にありがたいと思います。教室内にしても、先生一人が全員の子どもたちを見ることは難しく、少なからず見落としはあると思います。</p> <p>できるだけ多くの目で見ることにより、先生たちの不安やストレスの軽減につながり、子どもたちを見る余裕を持つことができるのではないかと思います。</p> <p>最近では講演などで、コロナ禍における子どもの鬱の話を耳にします。実際に不登校児童生徒の推移を見ると、コロナの前から急激に増えています。その後も、コロナ以外に多数の理由があるのではないかと思います。そのような急激な伸びを示しています。</p> <p>私が注目したことは、小学校高学年、中学生の「無気力傾向」にある多くの子どもたちが病院で受診していることです。</p> <p>近年、親も含め、スマホやネット環境がないと生活できない依存症的なものが急増しています。それが寝不足や目の疲れにつながり、学習意欲が湧かないことや、学校に行く気がしないことの原因となっています。</p> <p>受診した子どもの話を聞くと、ほとんどの子がいじめなどではなく、ネットやスマホの使い方に問題があったため、小学生の早い時期から教育する必要があると思います。</p>
<p>市長</p>	<p>事務局から説明があった「不登校親の会」は、具体的にどのようなことを実施するのか説明をお願いします。</p>
<p>事務局 (学校教育課)</p>	<p>コーディネーター役として「心のアドバイザー」に参加していただき、個別の悩みや相談などを聞く中で、保護者同士のコミュニケーションの場を設定したり、悩みを共有したりする機会を作るという流れを予定しています。</p> <p>保護者も一人で悩みを抱えることがないように、また少しでも負担を軽減できる会になればと考えています。</p>
<p>市長</p>	<p>子どもたちのスマホの問題ですが、どの程度の依存症の可能性があるのででしょうか。</p>

<p>教育長</p>	<p>ネット依存症は、病気として認められており、本市が特別ではなく、全国でかなりの人数であるとの報告があります。</p> <p>今は、学校でもネットを活用して授業していますので、最初からネット依存になるのか、あるいは何かが原因でネットに頼っていくのかなど、どのような環境になると依存症に向かうのか分析していく必要があると思います。</p>
<p>市長</p>	<p>令和3年度の不登校児童生徒数がかなり増加しており、中学生は学力の問題が大きな要因のようですが、小学校の主な原因は何なのでしょう。</p>
<p>事務局 (学校教育課)</p>	<p>コロナだけでなく、SNSの急激な普及により生活習慣が変わってしまったことが原因のひとつではないかと思います。</p> <p>また、小学生だけでなく中学生も含め、親子関係の複雑化による家庭環境への影響も大きく関係していると実感しています。</p>
<p>教育長</p>	<p>小学校の傾向を見てみると、不登校という実態が現れるところは高学年です。なぜ高学年なのか大きな着眼点になりますが、低学年は、ただ学校に行けば十分だという環境にあり、勉強が苦手でも、教室の中に居づらくありません。</p> <p>ところが学年が進むごとに、「勉強ができない」「わからない」「つまらない」などが重なり、その結果、高学年で不登校になる児童が多く現れます。中学生になると、それが学業となりさらに大きくなりますので、勉強の面白さがひとつのポイントになります。</p> <p>もうひとつ、注目すべきところは家庭環境です。市あるいは教育委員会から直接的な関与が難しいため、多くの方々の意見交換などを通じ、少しでも家庭内のストレスが軽減できるような仕組みを作っていくことが必要だと思います。</p> <p>孤食や部屋に入ってしまうと、自分自身の存在意識が薄くなり、前向きなことがなくなると楽しみもなくなります。例えば、ゲームやネットが唯一自分に反応してくれる存在になってしまうと、「学校に行きたくない」「気力がない」などにつながるため、「ふれあい」や「家族」の輪を大切にしなければならないのではないかと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>子どもは親のことを見ていますから、もう一步、子どもに目を向けることが大切なのではないかと思います。</p>

<p>教育長</p>	<p>本市に限らず全国的に不登校児童生徒が増加していますが、子どもの人数が減少傾向にある一方で、不登校が増加していることは大きな課題です。</p> <p>1年を通して見ると、夏休み後の増加が顕著であり、年末年始の休みなどを含め、学校を離れる期間が長くなると不登校が増加する傾向にあることも注目点だと思っています。このようなことを踏まえ、皆さんと今後の対応策について考えていければと考えております。</p>
<p>市長</p>	<p>不登校傾向の生徒が33万人もいるということも気になります。</p>
<p>教育長</p>	<p>不登校傾向の生徒自体が増加するのではなく、不登校傾向の生徒が実際の不登校に移動しているように思います。現実的に不登校を減少させることは、不登校傾向の子どもがいかにか不登校にならないかが重要となります。</p> <p>多くの目を見て、何かあるのではないかとということに、いち早く気づいてあげることが、私たちの役割ではないかなと思います。</p>
<p>伊藤委員</p>	<p>子どもが不登校になったときに、保護者はどのような反応や対応をされるのでしょうか。</p>
<p>事務局 (学校教育課)</p>	<p>相談してくださる保護者のほか、最初は一生懸命でもある期間を過ぎると諦めてしまう保護者や中にはまったく無関心な保護者もいらっしゃいます。心配をして相談して下さっている段階で、何か一緒にやれると良いと思っています。</p> <p>今回の親の会も、足を運んでくださるかたがいらっしゃることは、本当にありがたいと思っています。一緒に何とかしたいという想いなので、そのようなかたを増やしながら進めていきたいのですが、様々な考えかたがありますので一筋縄ではいかないというのが正直なところです。</p>
<p>伊藤委員</p>	<p>この会は、どのようにして保護者にお知らせしているのですか。</p>
<p>事務局 (学校教育課)</p>	<p>一番状況を把握している学校から、不登校もしくは不登校傾向にある子どもの保護者に対して、紙だけでなく直接趣旨を説明しています。</p>

堀委員	<p>学年ごとの不登校児童生徒数や不登校の要因などは把握しているようですが、保護者に対してこの先のシミュレーションを示すことができれば、参考になるのではないかと思います。</p>
事務局 (学校教育課)	<p>シミュレーションのイメージとしては、中学校卒業がターニングポイントになるかと思います。高校に通えなくても、通信制や単位制など、各種学校に進学ができます。</p> <p>進学後に頑張れる子どももいますので、私たちは支援をしていますが、現時点で情報を提供することができないため、必要性も含めて検討していく必要があると思います。</p>
堀委員	<p>不登校の子どもと、支援側が心配していることが違い、また相手が望むことばかりを協力できるわけではないので、少しずつ分かち合い、寄り添っていけるのかが気になります。</p>
事務局 (学校教育課)	<p>本市の不登校児童生徒の状況について、現在は、「遊び・非行傾向」による長期欠席者はほとんどいません。「無気力傾向」や「不安傾向」など、原因がはっきりしない、分からない児童生徒が多くいます。</p> <p>しかし、これはあくまで担任が所感をつけているため、本人が抱えているものと、実際にこちらが見取っているものでは、違うこともあります。また、自分が学校に行けない原因をはっきり分かっていない児童生徒もいます。</p> <p>学校現場の不登校対策としては、担任が中心となりますが、日ごろから本人や家庭と連携を取りながら、様々な声かけや支援を行っています。具体的には、タブレットを使ってつながりを持ったり、時には授業の様子などを配信したりする学校やクラスもあります。</p> <p>また、行事など一つの目標を掲げて声かけ支援している学校もあります。実際に、先々週、小学校の修学旅行が実施されました。6年生は9月に15名の長期欠席者となっていましたが、修学旅行を欠席した児童は2名だけでした。</p> <p>当日までに担任を中心に、スクールソーシャルワーカーも含め、様々な人がきめ細かな声かけのほか、スモールステップの提案や、放課後個別にしおりの読み合わせなどを実施したと聞いております。</p> <p>しかし、行事に参加するという大きな目標を達成した後に、どのように学校に目を向けさせるかが課題となります。</p>

山本委員	<p>その子たちが、修学旅行が終わった翌日から通常に登校できるかという、現状はそうではありませんので、行事が終わった後に、どのような声をかけて支援していくのかが学校現場の大きな課題と感じております。</p> <p>うまく言葉にできないことが、原因だと思います。例えば幼稚園や小学校低学年の時に、うまく言葉にできないために手が出てしまうことが続くなど、言葉にできないことを、どうすれば伝えられるのか、どうしたら自分の中で消化できるのか悩んでしまうと聞いたことがあります。</p> <p>親や大人から声をかけてもらえるため、自分で考えなくても答えを言ってもらえることなども原因ではないかと思います。</p> <p>伝えることを育てていくということは、本当に課題なのではないかと感じます。大人でもうまくできないことを、小学生、中学生が伝えられるのかという、なかなか難しいと思います。それをどのように学習面で取り組んでいくかということも含めて、考える必要があると思います。</p>
市長	<p>「ただいま」の声だけで、その日の調子が分かったりします。あいさつは、しっかり家庭でやっているのでしょうか。</p>
教育長	<p>家庭の状況まで把握することは困難ですが、本市の子どもは「おはよう」とあいさつすると、「おはようございます」と返ってきます。</p>
山本委員	<p>私も、子どもの顔を見て「今日は疲れているな」とか、「何か嫌なことがあったのかな」ということは、何となく感じます。家ではマスクを外すので表情が見られますが、学校だとマスクを外せないで、全部の表情を見られないということが気持ちを察することの難しさを生んでいるのかもしれない。</p> <p>家に帰ってきてマスクを外した時の顔色や表情、また動きなどからもその日の調子が分かりますので、コミュニケーションは大事だと思います。</p>
市長	<p>親や、誰かがきちんと見ていてくれるということが、一番大事ではないかと思います。</p>

<p>教育長</p>	<p>言葉は大切であり、ストレスを抱えないためには、自分の考えていることや思っていることなどをしっかりと表さなければなりません。私たちにとっては、それが基本的には言葉になります。</p> <p>小さい時は言葉で表せないから、手を出したり、駄々をこねたりということがあります。言葉で表せるようになると、それがコミュニケーションにつながって、自分の存在感が分かり、言葉によってストレスも発散できるため、嫌なものも自分の中で整理ができるようになります。</p> <p>低学年の言葉が見つからない子どもに対して指導することが、不登校傾向の子どもを減らすための大きな鍵になってくると思います。</p>
<p>堀委員</p>	<p>携帯電話でゲームや動画を軽く見ている子どももいれば、かなり深いところまで夢中になっている子どももいるため、学校でも把握し、親子に指導することも大事であると思います。時間に関係なく夢中になると、身体面にも影響も及ぼすと思いますので、専門家から注意していただくことも良いかと思います。</p> <p>以前、東中学校でいただいた資料では、毎日良いことを3つ見つける習慣など、大切なことが書いてあります。これを読み、毎月こうして話し合える子どもや親は幸せだと思います。そこに一つ気づきがあることにより、成長していくのではないかと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>子どもたちのスマホの状況はどうなっていますか。</p>
<p>事務局 (学校教育課)</p>	<p>データはありませんが、みんな持っているという声を聞いています。学校からも、使用時間は21時までとするなど、タブレットを渡す時も絶えず呼びかけていますが、フィルタリングしている家庭もあれば、そうでない家庭もあるなど、なかなか踏み込んだことができない状況です。</p>
<p>教育長</p>	<p>様々な統計や集計など、数値的な状況は分かりやすいですが、やはり不登校は、数字だけでは把握することができません。</p> <p>不登校傾向といった分かりにくいところに、学校や家庭のもどかしさがあるのではないかと思います。</p> <p>そこを強化していくことが手っ取り早い解決方法につながりますが、少しでも早く気づくという目線で学校だけに全てを押し付けることは、違うのではないかと思います。</p>

<p>市長</p>	<p>まずは家庭に一番理解していただいて、家庭での変化などを学校と連携できると、学校としても目を向けることができるのではないかと思います。学校でも多くの目で見られる状況が必要となると、今の教員だけで全部行うことは困難ですので、様々な支援や地域のかたの協力も得ながら進めていくことが、今後の対応の一つとなってくるのではないかと思います。</p> <p>少し気になるのが、不登校の原因をなかなか示すことができないことであり、私たちはそれを見つけ出さなくてはなりません。基本的には、人間関係や学業が原因と言われていますが、そこに今後どのような対応策が見つかるかということになってきます。</p> <p>人やモノで対応できることであれば行政側でしっかりと対応し、学校や家庭がやらなくてはならないこととして、不登校の現状や自身の子どももこうなる可能性があることを知っていただけるよう、周知していくことが非常に大切であると感じました。</p> <p>不登校になる前の子どもたちへの対応や、学校現場での対応策について、さらに委員の皆さんと意見交換させていただきたいと思いました。このため、次回の会議では、学校現場での対応策等について資料を提示し、改めて御意見を聞かせさせていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。</p>
<p>企画課長</p>	<p>ただいま、次回の会議に関することについて、市長から発言がありましたので、来年の1月から2月ごろに、今年度「第3回目」となる会議を開催したいと思います。</p> <p>なお、正式な開催通知につきましては、後日改めて送付させていただきますので、よろしくをお願いします。</p>
<p>市長</p>	<p>それでは、これをもちまして会議を終了させていただきたいと思います。</p> <p>なお、先日「今年はインフルエンザの流行が心配される」との記事を見かけました。また、コロナの第6波の到来も危惧されていますので、体調管理にはくれぐれも御留意くださるようお願いいたします。本日は長時間にわたって、ご参加をいただき、誠にありがとうございました。</p>